

⑤ Int. Cl².

F 16 C 19/38

⑥日本分類

53 A 222

⑦日本国特許庁

公開実用新案公報

内整理番号 6461-31

⑧実開昭50- 32449

⑨公開 昭50(1975) 4. 9

審査請求 未請求

Publication Date:

April 9, 1975

⑩軸受装置

⑪実願 昭48-86514

⑫出願 昭48(1973)7月20日

⑬考案者 猪飼頼造

京都市東山区山科音羽前田町22

の4

同

村上広幸

川西市花屋敷2の4の7

⑭出願人 ヤンマーディーゼル株式会社

大阪市北区茶屋町62

⑮代理人 弁理士 岸本芳夫 外1名

⑯実用新案登録請求の範囲

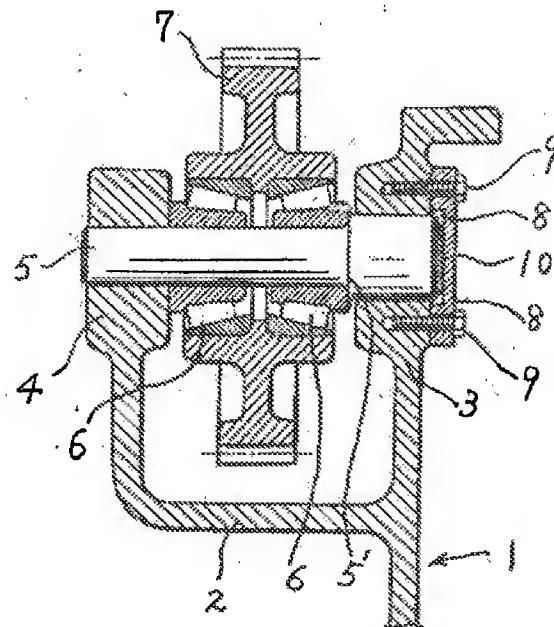
ブラケットのボスによつて両端が支受された支持軸上に、テーパコロ軸受を2個逆向きに接挿し、該一方のコロ軸受内輪を一方のボスに接触させ、他方のコロ軸受内輪を他方のボス外側面に取付く蓋板にて隙間調整板を介して押圧して成る軸受装置。

図面の簡単な説明

第1図は本考案軸受装置の縦断面図、第2図は別の実施例を示す要部断面図、第3図は隙間計測の状態を示す図である。

1……ブラケット、3，4……ボス、5……支持軸、6，6……テーパコロ軸受、7……歯車、8……蓋板、10……隙間調整板。

第1図





後記号文書

実用新案登録願 (2)

(1,500)

昭和 48 年 7 月 20 日

特許庁長官殿

1. 考案の名称

ダクターフラッシュ

2. 考案者

住所 (居所) 京都府京都市東山区山科音羽前田町 33-4
 氏名 鈴木 順造
 (ほか 1名)

3. 実用新案登録出願人

住所 (居所) 大阪府大阪市北区茶園町 63番地
 氏名 (名称) (678) ヤンマーディーゼル株式会社
 代表者 山口 審男

4. 代理人

〒 541
大阪市東区北浜 4 の 46 万成ビル弁理士 (5165) 岸 本 芳 夫
 (ほか 1名)

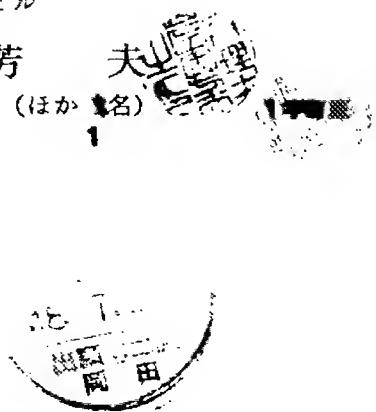
5. 添付書類の目録

- | | |
|----------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 委任状 | 1 通 |
| (4) 願書副本 | 1 通 |
| (5) | |

方式

審査

48-086524



明　　書

1. 考案の名録

軸受装置

2. 實用新案登録請求の範囲

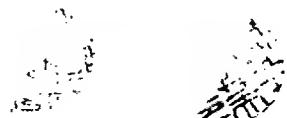
プラケットのメスによって両端が支受された支
持軸上に、テーベコロ軸受を2個逆向きに接合し、
該一方のコロ軸受内輪を一方のメスに接觸させ、
他方のコロ軸受内輪を他方のメス外側面に取付く
蓋板にて該両側蓋板を介して押圧して成る軸受裝
置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、テーベコロ軸受を2個用いた軸受の
改良に関するものである。

両端支受された支持軸上に轍車、ブーリ又は車
輪などを鋼板自在に取付ける場合において、轍車

(a)



が大きいときはテーパコロ軸受を2個並設することが行なわれているが、このテーパコロ軸受を2個使用する場合には、外輪とテーパコロとの隙間を適正に調整する必要があり、従来はこの隙間調整を支持軸に締合したナットの締め付けによつて行なつてゐるから、該支持軸の両端を支受するブラケットのマス間隔を広げなければならなければかりに、組立後におけるナットの締め付け調整を長い場所で行なうため、極めて困難であり、且つ当該コロ軸受の交換等の分解も困難であつた。又、支持軸上にテーパコロ軸受を介して歯車などを締着した状態で、ブラケットに取付けることも行なつてゐるが、この方法は支持軸の両端を支受するブラケットのマスを分離強化するか、或いはブラケットに歯車などを通すする大径の貫通孔を設

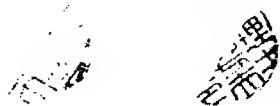
ければならないのであつた。

本発明は、このようなくプラケットに両端が支受された支持軸上に1個のテーベコロ軸受を介して曲車などを取付ける場合において、前記両コロ軸受の裏面側壁を、プラケットの外側面から至極容易にできるようとしたものであつて、これを実施例の圖面について説明するに、(I)はV字状のオイルパン(I)を有するプラケットを示し、該プラケット(I)に一体に設けられたメス(3)(4)間に支持軸(6)を嵌めする。この支持軸(6)は翼板(6')を有し、該翼板(6')と前記一方のメス(4)との間に1個のテーベコロ軸受(8)(9)を逆向きに嵌めして、その外周に曲車(7)を嵌めする。(8)は他方のメス(3)外側面にメルト(8')(9')にて取付けられる蓋板であり、該蓋板(8)は凹所(8)を有し、この凹所(8)内に前記支持軸(6)端面との間



車に応じて車室厚さの該当測定板面を挿入して成るものである。

この装置の組立ては、轟車(1)内に嵌められたチーベコロ軸受側面を、ブリケット(2)のメス側面(3)との既定位置に保持した状態で、支撑軸側をメス(3)側から挿入し、次いで轟(1)の凹所(4)に着干厚い車の厚さ(5)の該当測定板面を挿入して、蓋板(6)をベルト(7)にて取付け、轟車(1)が止つくことなく軽く回転できる程度まで締め付けて(第1図)、メス(3)側面と蓋板(6)との該当面を測定すれば、(2)から側を差し引いた値が前記該当測定板面の厚さとなる。次つて該当板面の厚さ決定後は蓋板(6)を取り外し、既定厚さの該当板面と入れ替えて、再度取付けることにより、支撑軸側が抜け不能に固定されると同時に、両チーベコロ軸受側の該当面



定が完了するのであり、この場合において、支持軸(6)は自己のように内筒(4)を脱けることによって、図10に示すように内筒アッシュ(4)を用いて、コロ軸受を押圧しても良く、又、支持軸(6)を回板不動に固定したいときは、その軸から距離(8)だけ離した位置にあって、蓋板(8)からボルト(10)を締じ込めば良いのである。

以上のように本考案は、2個のボスで両端支承された支持軸の両端にコロ軸受を、ボスの外側面箇所から軸固定するものであるから、支持軸に従来のようにナットを脱ける必要がなく、プラケットの両ボス間の距離を狭くすることができるばかりでなく、軸固定が更に簡単且つ正確に行なうことができ、又、プラケットはボスを分割したり、複数は大きな貫通孔を設ける必要がな

く、構造が極めて簡単で且つコロ軸受の交換が簡単にできる効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

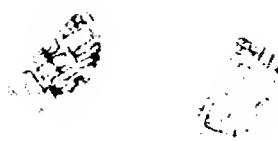
第1図は本考案軸受装置の横断面図、第2図は別の一実施例を示す裏面断面図、第3図は該開計測の状態を示す図である。

1…プラケット、2、3…ボス、4…支持軸、

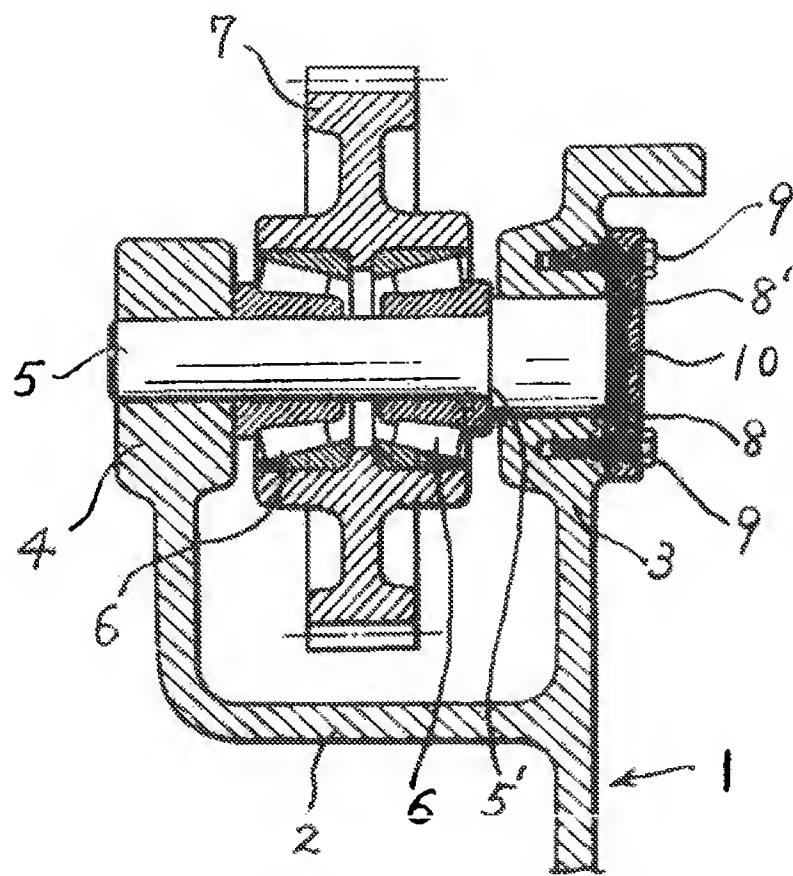
5、6…テーパコロ軸受、7…曲車、8…蓋板、

9、10…横面調整板

(特)

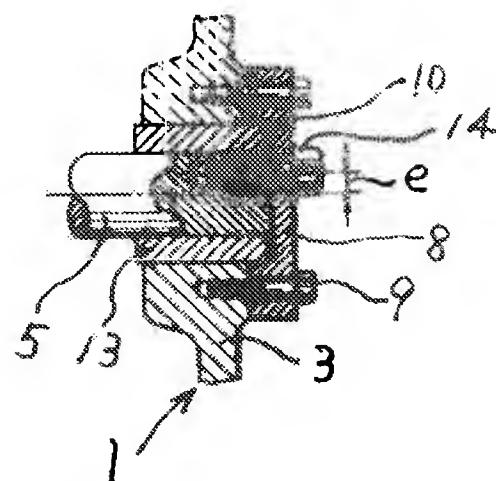


第1回

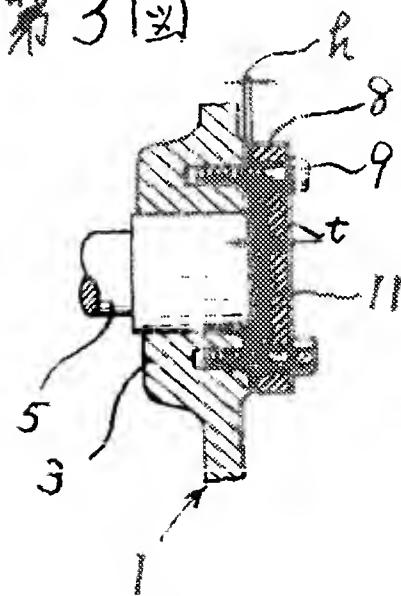


美利坚合眾國出願人代理人 岸本芳夫
（株）カネボウ
324491/2

第2図



第3図



実用新案登録 出願人代理人 岸本芳夫
はが 1号

32449 7/2

6. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人または代理人

(1) 考 案 者

住所 兵庫県川西市花畠敷3丁目407

氏名 村上廣幸

(2) 実用新案登録出願人

(3) 代 理 人

大阪市東区北浜4の46 万成ビル

弁理士 (7343) 江頭藤八

